

東京桑野会会報

●2007年4月1日発行 ●発行・編集人 古川清 ●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804



画：今泉勝行（母校教諭）



No.29



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

東京桑野会にも強いインパクトを与えたものとして、福島県立高校の男女共学完全実施を考えてみたい。半ば強引とも思えたその進め方には、男子校、女子校の多くの卒業生が反対を表明した。私も反対であった。戦後半世紀以上も経っているのに「何を今更」との気持ちもあった。少なくとも卒業生の組織は100年近く或いはそれ以上（安積の場合は116期まで）男の文化、女の文化を持ち続けてきた訳であるので、同窓会などでは異性がすんなりとなじむまでには、尚若干の期間を要するかもしれないと思う。

結論を申せば、少なくとも安積高校に関する限りは共学制は成功であった。一種のシナジー効果とも言うべきであろうが生徒の質も向上し、大学進学率にも改善が見られている。私は昨年、二回安高を訪問する機会があった。一回は大学受験を控えた三年生を激励し、一回は「分

野別講演会」の基調講演を依頼され、一年生を対象に進路について先輩ズラをして参考になる話をしたつもりである。私の率直な印象を申し上げれば、明らかに生徒達の生活は充実しており、高校生活を意欲と達成感をもってエンジョイしている。正直なところ、彼らの未来に全く心配はいらなかった。

最後になるが、我々の関心事は関東圏の大学に進学した後輩達を如何にして東京桑野会に誘導するかである。若い力の注入がないと組織は老衰してしまうからである。一案ではあるが、毎年の分野別講演会の多くは東京桑野会のメンバーによってなされているので、このチャンネルで東京桑野会総会・懇親会の参加者を増やせないものであろうか。諸兄の知恵と協力をお願いしたい次第である。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を次の通り開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2007年（平成19年）5月29日（火）
- 時 間 午後5時——受付開始
午後6時——総会
午後6時30分——懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. 役員改選の件
4. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
(TEL 03-3943-1101)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円
(学生は年度会費込み 3,000円)
2007年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月18日（金）迄にご返送下さいませようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2006年6月24日に開催され、約150名の参加があり盛況でした。

母校便り

★「ふるさとには遠きにありて思ふもの・そして悲しくうたふもの・よしや・うらぶれて異土の乞食となるとても・帰るところにあるまじや・ひとり都のゆふぐれに・ふるさとおもひ涙ぐむ・そのころもて・遠きみやこにかへらばや・遠きみやこにかへらばや（室生犀星、小景異情—その二より）」—高速交通網の発達で、故郷“安積野”は首都圏から近くなりました。でもOBは毎年一歳ずつ歳をとるわけであるから、「母校・安積」は時間的には着実に遠くなっていきます。少しでも、安中生、安高生だった頃を思い出して頂くため、今に生きる現役安高生および安積高校の姿をお伝えします。

★文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業が、平成18年度で終了しました。母校は第1期の26校の一つに指定され、5カ年の全期間を全うしました。SSH事業は大学や関連機関との連携・支援のもと、高等学校レベルを超えた自然科学の基礎概念の早期取得をねらいに行われ、母校では平成18年秋に安積歴史博物館において、研究成果報告会および課題研究発表会が、多くの関係者が出席する中で行われました。

★運動系の部活動では、弓道部の折笠有紀さん（120期）が、東北総体総合優勝、国体5位という素晴らしい成績を修めました。他に、県高校新人大会では、テニスで澤口いづみさんが優勝した他、剣道部や陸上部などでも活躍が目立ちました。

★文化系での部活動では、化学部の佐藤祐希君（120期）が、全国高校化学

人が、季節が、集います。

味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラア

宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN-SO
椿山荘
03-3943-1101

会員動向

【平成18年秋の叙勲受章】

東京桑野会会長 古川清氏(63期)は、平成18年秋の叙勲で、瑞宝重光章を受章されました。長年にわたる皇室事務功労により授与されたものです。

【会員消息】

樽井澄夫氏(79期)が、平成18年10月31日付けで、国連軍縮会議代表部大使に就任されました。益々のご活躍を祈念申し上げます。

【訃報】

当会顧問 星武典氏(58期、公認会計士)が、平成19年2月5日に逝去されました。東京桑野会では大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。/ 母校の元教諭 長嶺力夫先生が平成18年4月25日に逝去されました。先生は長年、安積高校で教鞭をとられておりましたので、本会にもお世話になられた方も多くと思います。転任して初めて受け持った学年が88期で作家の玄侑宗久氏も印象深かった、と生前のハガキにありました。謹んでお悔やみ申し上げます。

【東京桑野会ゴルフ同好会よりお知らせ】

ゴルフ愛好者が集い懇親ゴルフ会を開催しております。東京近郊で「近く・安く・楽しく」を目指し、古川会長を

囲みながら楽しんでおります。「同窓の親睦・相親しみ楽しく・頼りになる」ことを実践すべく続けております。ゴルフはトップシーズンにプレーしたいのですがそうはいきません。今年も8月下旬～9月上旬、平日開催を目指しています。愛好者は東京桑野会事務局に連絡してください。日時・コース決まりましたら御案内いたします。

最近多くのゴルフ場がメンテナンスに努力し「緑の保全」に頑張っております。(社)ゴルファーの緑化促進協会の(GGG)はゴルフ場だけでなく、学校や公園の緑化保全への協力を進めていると聞いています。校庭の芝生・樹木の管理に専門家(資格者)であるグリーンキーパーを派遣し、相談のり指導しているとの事です。『マツに親しもう(マツは環境案内人)』なる小冊子を出しております。ゴルフ場での支払い明細に緑化募金(¥50)がありますが、その中の¥45がGGG事務局へ集まります。これを地方緑化事業(¥32)・全国緑化事業(¥8)・GGG事務局活動費(¥5)に分配されているとの事です。ゴルファーも少しはいい事やっているではありませんか。

(ゴルフ同好会幹事 71期大内博文

TEL: 044-955-4726、

Eメール: ohuchi@extra.ocn.ne.jp)

グランプリで金賞を、県内では初めて受賞しました。「まずは大学に行こうと思う。将来は化学に限らず、研究者などになりたい」と、今後の目標について問われて。希望は必ずかきますよ。また、放送部がNHK杯全国高校放送コンテストに出場したり、写真部が県総合文化祭で最優秀賞2名を輩出するなどの活躍を見せました。

★今年1月7日、8日の強風で、母校の「新城松」が根こそぎ倒れ、樹木医の診断で再生不能とのことで撤去されました。母校創立90周年の際に、渡辺安衛氏寄贈の記念碑が建てられました。あれから30余年、大往生でしょうか。新城松の種子から育ったと思われる幼木を第二の新城松にしようと思案中とのことです。今まで見守ってくれてありがとうございました。



死後部長高齒

画: 岩谷 徹 (67期)

安積歴史博物館の改修

安積桑野会会長

佐久間崇之 (69期)

石川博之会長の時から、桑野会会長が、財団法人安積歴史博物館の理事長を兼任することになりました。昨年の安歴博の会議で、突然、前回の改修は阪神淡路大震災の時だったとの話があり、国指定の重要文化財は、10年に一度、内外装や補修が行われることが分かりました。「エー、これは大変だ」と思い建物を点検したところ、北側(正面玄関側)の外装はまだ大丈夫だと思いましたが、南側(校庭・図書館側)は、かなり外装がはがれ落ちていた状態でした。

国の予算編成に間に合うよう、郡山

市の文化課に問い合わせ、指示に従い市内の2社に見積書を作って貰いました。

消火栓が故障していてタラタラしか水が出ないということで、消火設備についても上記の2社に見積もりを提出して頂いたところ、外装については前回と同様4千万、消火設備については、大体5百万位で修理が出来るだろうということでした。新潟、福井の災害でそちらの文化財がかなり痛手を受けているので平成19年の国の予算には安歴博は通らないであろうという市役所の話もありましたが、市、県の担当課を通じ、文化庁に書類を提出したところ、昨年の11月に文化庁の方が3名視察に見えられ、消火栓から放水したところ、地中に埋設してあった鉄管が破裂、水が土中からあふれ出てしまいました。地中の鉄管の殆どが腐食し

ていて全て交換をしないとダメで、消火設備の全面改修が必要との判断が文化庁から出されました。そこで、安歴博の防災計画案なるものが文化庁から提示され、全体で約4200万円の費用がかかり、県、市、財団でそれぞれ、約490万円の負担金がかかるということになってしまいました。

この工事が終了した後、2～3年後に約2000万をかけ、外装工事が実施される予定で、これにも財団として1割以上の負担金がかかる予定です。

資金がないので、工事は取りやめますと言うわけにもゆかず、皆様からの善意をあてにして、実施するしかないと思っております。すみません。

朝河貫一顕彰会での庭園建設への協力等、安積桑野会の皆様にはご負担をお掛けして申し訳ありませんが、何と

ぞ当方の苦衷もお察しの上、ご協力を
お願いする次第です。

安歴博の収入増をはかるべく、い
ろいろ議論もしております。H17年度
の入館者は2,242名で、入館料収入は
494,660円でした。入館料は大人1人
300円ですが、郡山市内の小・中学生
の団体は無料としております。一方、
安高生の部活、特に吹奏楽の練習・

PTAの学年集会にも使っていただい
ておりますが、安歴博のトイレは男
子の朝顔が2つ、和式が1、女子は、
和式が1つのみで、女性トイレが足り
ず、増設が必要です。現在PTA、生
徒の女性は本校舎の方のトイレを使
用して貰っています。トイレについて
は財団自体で改築するようにとの文
化庁の指導で、これまた頭の痛い問題

です。安高グッズの製作、販売、講堂
の賃貸、運営費協力者をどうしたら増
やせるかなど、増収をはかるための議
論をしておりますが、決め手となるも
のがなく、苦慮しております。何かい
いアイデアがあれば、是非、ご提案
をお願いしたいと思います。よろしく
お願いいたします。

(医) 佐久間歯科医院 理事長

安積に学ぶことの幸い

安積高等学校長
関 博之

安積122年の重みをしたたかに感じ
るときがある。その一つは、安積が育
み輩出してきた海のように広い人材
の豊かさ、多彩さを身をもって感じる
ときである。就中、その豊かさ、多彩
さを本校生徒とのかかわりの中で目
のあたりにするとき、安積に学ぶこと
の幸いに心がふるえる。

東京桑野会古川清会長には、昨年
度2度にわたって珠玉のご講話をい
ただいた。1度目は9月半ば、受験に
挑む3年生360名に対する激励のお言
葉。会場の旧本館2階講堂は波を打っ
たように静かで、生徒は身じろぎ一つ
しない。古川会長のお言葉の一語一語
がそのまま吸い込まれていく。一語も
逃さないぞという強い意志を瞳に込
めて集中しているのが、傍らで聴いて
いる私にもありありと伝わっていた。

2度目は10月半ばの「分野別講演会」
での全体講演。1年生の進路意識の早
期確立をねらいとして東京桑野会の
協力の下に実施してきたが、今年新た
に保護者を加えて約700名を対象とし

た全体講演を企画した。会場は第1体
育館。古川会長の演題は「職業に就く
こと」。新たな試みをもたらした効果
は計り知れない。さらに分野別講演で
は法学、バイオ、マスコミなど11の分
野でキャリア豊かな講師が2コマず
つ熱弁。生徒たちは新たな眼を開き、
心の火を燃やしている。尽くせぬ感謝
の意を生徒の感想をもって替えたい。

済生会栗橋病院副院長本田宏氏の
「医師という仕事から見える人生、そ
して社会」を聴講した女子生徒の言。
「本田先生の講演は嵐のように去って
いってしまいました。この講演で今病
院で起こっている医師不足や赤字、医
療機関の様々な実態について詳しく
知ることができました。そしてたくさ
んの良い言葉をいただきました。医療
の現場では医者だけでもダメだし、看
護師だけでもダメなのです。みんなが
いるから成り立つのです。この講演で
勉強することの意味がわかりました。
思ったことを口にするには知識が必
要です。根拠が必要なので知識を得る
ために勉強するのです。今回の話を聞
いてこれからの私の将来についてよ
く考えることができました。」

医学のことが重なるが、やはり先輩
で地元の太田西ノ内病院の太田昌宏
医師には本校の医学を志す2年生が

大変お世話いただいた。医学部志望者
の研修会に講師としてお出でいただ
いた折に「希望があれば、医療現場を
体験する機会を提供するよ。」と言っ
ていただいた。早速2年生19名が10月
から12月にかけての土曜半日、3~4
人のグループごとに太田医師の勤務
病院で体験研修に臨んだ。研修を終え
た生徒は厳しさを実感しながらも覚
悟を深めている。「本当にこの道を選
んでいいのか、この職業を選んでいい
のかということを実際に考えさせら
れました。仕事の半端でない忙しさ、
責任の重さ…いろいろなことをこの
施設見学でより確かなものにできた
気がします。」「研修医の方には、本当
に医者になっていいのか、ということ
を深く問われてびっくりしました。私
が医療に関わる者になるということ
しか考えていなかったこと、これから
どのような学習、気持ちで生活してい
かなければならないか、見えてきたよ
うな気がします。」現在の1年生も2
年になったら同様の機会を与えてい
ただけることを願っている。

一つの時代を担い、新しい歴史を創
造していく志高い若者を輩出し続け
る安積であるために、桑野会の数多く
のお力添えをたまわりたい。

自動車、情報通信、医療・介護の分野で高品質のゴム製品を供給しています。



本 社 〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2 tel.048-650-6051 (代表) Fax.048-650-5201
大阪営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 tel.06-6930-2521
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493
白河工場 〒961-0004 福島県白河市萱根月ノ入1番地21 tel.0248-21-1401 Fax.0248-21-1404

◇創業 1970年
◇資本金 5億454万円
◇JASDAQ証券コード5162
◇ISO9001 認証取得
◇ISO14001 認証取得

取締役会長 伊藤 巖 (65期)
監査役 柳沼 晃 (65期)
顧問 中井惣吉 (65期)

映画「百万人の大合唱」 DVD化について

山口松之進（101期）

この度は寄稿をする機会を頂きまして誠にありがとうございます。この場をおかりしまして、まずはDVD化に関しまして多大なるご協力を頂きました郡山西ロータリー様、高橋金一先輩、高島久プロデューサー、そして東京桑野会の皆様、特に渡邊龍一郎副幹事長、芳賀雅美副幹事長、そして数多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。

それでは、DVD化に至るまでの経緯を少しご説明したいと思います。きっかけは、昨年度（平成18年度）に開催した青年会議所全国大会郡山大会でした。2年前、翌年に控えた大会のテーマを「音楽」に決めました。郡山が全国に誇るものとして27年連続合唱コンクール金賞の安積黎明高校（旧安積女子高校）合唱部の活躍などがあったからです。そしてさらに郡山の音楽の歴史を調べていったところ、昔郡山を舞台にした音楽の映画があったということを知ります。その映画こそ「百万人の大合唱」でした。しかし、郡山JCメンバーの誰もその映画を見たことがありませんでした。何とか見る方法はないかと、いろいろ調べ始めたころ、一枚のチラシが郡山JC事務局に送られてきました。郡山西ロータリー主催の映画「百万人の大合唱」上映会のチラシでした。何という偶然であり、ラッキーなことかと思えました。すぐに郡山西ロータリーで担当されていた高橋金一先輩に連絡を取り、チケットを手配いただきました。平成17年4月26日（火）郡山市民文化センターで郡山JCから約40名で映画を見ることができました。

その映画には、昭和46年当時の郡

山がそのままに映っていました。私は昭和45年生まれですので、さすがに1歳のときの記憶はありませんが、小学校低学年時に記憶している風景がいろいろな場面で出てきました。それぞれの場面で、おもちゃを買ってもらった記憶、家族でご馳走を食べに言った記憶、など当時の自分が思い出されてきました。私でさえそうなのですから、実際に映画に出演されていた方、当時青春時代を過ごしていた方々、もっと鮮明に当時を記憶している人からすれば、一場面一場面ごとに様々な思い出が思い起こされながら映画を見られていたことでしょう。実際、この上映開催後、いろいろな場面でこの映画のことが話題になりました。「自分はそのシーンに出ていた」とか「直接酒井和歌子を見た」といって自慢する人がいたり、「当時はこんなことしていたのだ」など相手の今まで知らなかった一面を知ることができたりと、この映画がきっかけとなっているところなどで会話に花が開いたことでしょう。この「百万人の大合唱」という映画が郡山も街の記録ということを超えて、郡山市民の思い出の詰まったものになっていることをすごく実感しました。

また、映画のストーリー自体が、「音楽」の力を感じることが出来る内容でした。賞をとることが目的でなく、譜面どおり歌えることが目的でなく、歌うことが楽しい、音楽を聴くことが楽しい、みんなでいることが楽しい、そんな「音楽」を心から楽しむことができる人が多くなれば、郡山青年会議所が目指す「笑顔溢れる音楽都市こおりやま」を実現できるのではないかと、そんな思いから生まれたのが、市民参加型の全国大会記念事業「こころが奏でる市民音楽祭～百万人の大合唱～」でした。

この上映会をきっかけに、映画のDVD化と市民全体を記憶に残るよう

な事業の実現へ向けてスタートしました。ここで情報のやり取りをさせていただいたのが東京桑野会の芳賀先輩でした。その後の様々なやり取りは以前この会報の中でも紹介をされている通りです。渡邊龍一郎副幹事長のご尽力で、平成17年11月14日（月）日比谷シャンテにて再度映画を試写できることになりました。高島プロデューサー、東映関係者、山本純之助氏（山本直純氏のご子息）、それと東京桑野会の皆様を含め30名ほどで鑑賞しました。鑑賞後は、またみんなで思い出話に花が咲きました。東京桑野会の皆様の生き生きとした笑顔を見たとき、やはりこの映画は何とかしなければという思いを強めました。

以前より、この映画の制作会社が既に倒産状態であることなどがネックとなって権利関係が複雑でDVD化は難しいと言われておりました。今回、高島久プロデューサーが、この映画の価値や音楽のすばらしさを伝えるべくこの映画のラストシーンをまさに現実化しようという記念事業の企画に賛同をしてくださりました。何度も映画会社側と交渉を繰り返していただき、様々な問題点をクリアし、DVD化が現実のものとなりました。そしてそれは我々の青年会議所全国大会郡山大会の開催の記念というプレミアムまで付けていただきました。また、大会記念事業の実現へも多大な協力を頂き、昨年10月9日ビッグパレットふくしまで、全国大会郡山大会のフィナーレを飾る記念事業「こころが奏でる市民音楽祭～百万人の大合唱～」が、7,500名の参加者を集め、大盛況のもと開催をすることができ、最後には映画のラストシーンのごとく大会イメージソング「君の笑顔にありがとう」を会場全体で大合唱することができました。

すでに100本近く代理販売をさせていただきましたが、今も郡山青年会議

所の事務局に全国各地よりこのDVDに関して問合せがあります。酒井和歌子さんのファンの方から、吉田拓郎さんのファンの方から、映画に出演をされた方の息子さんから、当時郡山の小学校での上映会で見たとという方から。それぞれにドラマがありました。多くの方々が待ち望んでいたのだということを実感しています。今こんな社会だからなのか、時代を超えて、この映画が今必要とされているような気さえします。

振り返って、本当にDVD化することができてよかった、と実感しています。この映画「百万人の大合唱」を通じて、更に多くの方が笑顔になれることを願っております。この大事業に関わられたすべての人と人との繋がりに感謝いたします。ありがとうございました。

(社団法人 郡山青年会議所)

映画「百万人の大合唱」のエピソード

渡邊龍一郎 (81期)

映画「百万人の大合唱」須川栄三監督 東宝1972年公開が10月1日に34年ぶりにDVDとしてよみがえった。

ここまで来れたのはひとえに関係者の努力の賜物と深く感謝申し上げます。

この機会に、4th助監督として制作現場に参加した際のエピソードを紹介しようと思う。

エピソード①

映画のロケーションの食事というと大概は仕出し弁当が配られるが、街中でレストランがたくさんある場合などは食費が支給される。

制作部が小銭をスタッフ・役者一人

一人に手渡しして、好きなものを喰ってくれというわけである。勿論予算オーバーに食べた人は自腹である。

各パートごとにメインスタッフ(親分)がいるので連れ立って食事に行く、たいていは親分が払うこととなる。

やくざ映画の一面もあるこの映画では、やくざ役の俳優もそれらしき役者がキャスティングされている。

それでも名が売れ、顔が知られている役者なら一般の人にも役者として理解できるが、アクションや殺陣をする大部屋級の役者は見た目もスタイルもやくざそのもの(中には本当に背中に墨を入れている人も)、その大部屋さんを食事連れに行くのも私の役目であった。

陣屋通りあたりで撮影中に昼飯になり、私は数人の大部屋さんを連れて駅前の方へ向って歩いていた。

と、通りの向こうから明らかに地元のそれと思しき数人と出くわしてしまった。先方もギョとしたらしく、すごい目つきでにらみながら近付いてきた。

「お前らどこの組のもんだ!」というわけである。大部屋俳優連中も負けてはいない。伊達にやくざの役をやっているわけではないので「おまえらこそなんだ!」とにらみ合い、一触即発の状態。

私はおおいにあわてて、ここで喧嘩が起こったら撮影が中止になるほどの大問題になり兼ねない、必死になって、映画の撮影に来ている俳優であるとしどろもどろながら弁明に努め、幸い事なきを得たのであった。

エピソード②

麓山公園の市民会館前の広場で、合唱大会開催を妨害するやくざに市民が拍手をする

ことで追い返すシーンを撮影しようとしていた。

突然、黒塗りの外車が撮影隊の前に急停車した、中から一見してそれらしき風体の数人がばらばらと降りてきてわれわれの前にたちはだかった。

「お前ら 誰に断って映画の撮影しているんだ!」

一瞬われわれは「えっ!なに!なにがどうなってんの」という感じでした。

この映画は暴力追放の話なのだが、当然これらの了解はついているものと思っていたので驚いたのも当然でした。

まさか威嚇され、妨害される事態が起きようとは思ってもいませんでした。

すかさずプロデューサー以下制作スタッフが駆け寄り、カメラの前から引き離して脇へ連れて行きました。

事の次第がつくまで作業は中止、推移を見守ることになりました。

穏やかに話しが続き、まもなく先方は納得した様子。

目つきがするどい人たちを乗せた



黒塗りはわれわれの前から走り去りました。事なきを得て撮影が無事終了したのはいうまでもありません。

撮影しようとしていたシーンはクライマックスに至る導入として大切なシーンです。私も1カット、拍手をする若者で画面に登場しています。

エピソード③

映画やドラマの中で喧嘩などで殴りあうシーンを撮影するときは、必ず殺陣師が登場して段取りをつける。

この段取りをきちんとしておかないと、カメラポジションも照明もましてや俳優同士も怪我をしたり、画面からはみ出して写っていないかったり、劇的効果もなにもなくなってしまうのである。

このことは洋画も邦画もやり方は変わらない。大掛かりなアクションシーンや最初から危険が予想されるシーンにはアクション専門のスタントマンが代役することが多い。

この映画でも組同士の抗争シーンや若林豪さんを峰岸さんが殴る公会堂前の夜間シーンで殺陣がつけられた。

若林豪さんが殴られるシーンで、テストの時はうまく段取りどりにしていたが、本番になって勢いあまった峰岸さんの鉄拳が若林豪さんの鼻頭に強烈に入ってしまった。

うーっと唸って鼻を押さえてうずくまってしまった豪さん。監督のカットの声。

スタッフが駆け寄ると血のりではなく本物の鼻血が、そして鼻が見る間に赤く腫れ上がってきた。

メイクが冷たい水をガーゼに含ませて鼻にあてたが、豪さん痛そう！

撮影は中断した。このシーンを撮り終えるまでにはまだ何カットも残っているのだからここで終わるわけにはいかない。

急いで病院へ連れて行くことにな

り制作主任と公民館の方が車に乗せて走り去った。

思わぬアクシデントで現場はしばし混乱したが、豪さんの容態がわかるまで現場待機となった。皆めいめい時間をつぶすが10月末の郡山の夜は結構冷える。

しばらくたって豪さんの現場復帰は無理と判断された、東京へ帰って精密検査を受けることになったのである。

1ヵ月後、鼻も治った豪さんと峰岸さんのアクションシーンのリテイクは無事終了した。

(株)クリーク・アンド・リバー社)

映画「百万人の大合唱」の思い出！

箭内敬典 (93期)

私と百万人の大合唱の出会い、安高生としてではなく、「郡山少年合唱隊」の隊員としてのエキストラ出演です。

1971年(昭和46年)に郡山市内の小学校で4年生を迎えた私は、4月に「郡山少年合唱隊」の新規隊員募集の話を担当から聞いて面白そうなので、応募しました。「郡山少年合唱隊」は、主に旧市内の小学4～6年生の選抜で、40名程の合唱団でした。創立8年目を迎えたこの年、同じ学校から、6～7人応募し、試験には4人が合格、なんとかその中の一人として潜り込みました。

指導は市内の小中学校の音楽教師の有志により行われており、練習は毎週土曜日の午後、橘小学校、勤労青少年ホーム、児童文化会館等を間借りして行われていました。

「郡山少年合唱隊」の定期演奏会は、毎年11月に行われる秋の郡山市民音

楽祭出演、12月のクリスマスコンサート、3月の卒業コンサートが行われていました。

練習に通い出してもなく、秋に郡山市内をロケ地にした映画が撮影されるので、エキストラとして出演することになったとの知らせがありました。演奏会用の練習曲の他に、映画のテーマソング「いきているなら」等の練習を毎週行いました。10月の郡山市民会館を舞台にしたクライマックスシーンの撮影に備えて、国鉄郡山工場の男声合唱団との合同練習に、国鉄郡山工場に出かけたりしたことが思い出されます。

撮影は10月9、10日の2日間、郡山市民会館で朝から夕方までかけて行いました。今とは違い、照明のライトがものすごく暑くて、汗をかきながらの撮影だったことや、指揮者の山本直純氏のダイナミックな動き等が思い出されます。シーンごとの撮影で何回も繰り返しリハーサルを行い、朝から休憩を挟みながら撮影が行われました。撮影の間には新田司役の若林豪さんや茂山記者役の三上真一郎さん等が気さくに小学生の私たちの相手をしてくださり、特に緊張することもなく撮影が行われました。

でき上がった映画は翌年公開され、家族で市内にあった映画館に上映を観に行きました。また、学校でも移動映画教室で上映され、スクリーンに映し出された自分の姿にちょっと気恥ずかしかったことが思い出されます。母と大叔母、二人の妹も市民会館での撮影に参加しており、映画の客席のシーンに出ており、先日購入したDVDを実家で鑑賞して大変懐かしがり喜んでおりました。

改めて、DVD発売に際しご尽力いただいた諸先輩方に感謝いたしますとともに、安積高校OBの団結力の強さに感動いたしました。

(財)環境科学技術研究所

郡山への郷愁に 占める安高の割合

渡邊昌代
(安積女子高 昭和50年度卒
(高校28回))

何かしら心華やいでいるおぼろげな記憶・・・何人もの人が横道から出てきて さくら通りを目指して急いでいる。もうじき安高の仮装行列がここを通る、のだと言う。さくら通りの両側には、柳が植えられ さくら通り

という名を弁解するように柳の木にはセルロイド製の鮮やかなピンク色のサクラの造花が飾ってあった。私は何歳だったのか、とてもおぼろげな記憶の中のあの仮装の様子は実際の記憶なのか、わたしの想像でしかないのか、わからない。昔の郡山の思い出を紡ぐ時、私は必ずこの“時”を思い出す。

昨年 某安高フリークが「百万人の大合唱」と言う大昔の映画がDVD化されたのに感激して10枚余りも購入した、と聞いた。別段興味も無かったが、かつての安高生だった夫に話したら、「俺、出てるかも？」ということと、チョコレートとの物物交換によ

り、百万人・・・を入手した。郡山でのロケと聞いていたので何よりも例の安高の仮装行列と言う私の中での最大の謎をひょっとして解明できるかもと、幾ばくかの期待を持っていた。百万人の・・・は、私の期待には答えてくれなかったが、夫は市民会館の壇上で豆粒同然の何十年も前の自分を発見した。「百万人の大合唱」から昔の郡山をしのぶには、郡山弁があまりにも下手。言ってくればウチの母親貸したのに・・・口惜しい。

しかしながら昔の郡山の文化的、そして美しい街並み、私にとって。アーケードの珍満やかんのおもちゃ屋は懐かしすぎる。屋上の観覧車や見えないけどお猿の電車もあったはず。その中でも、とりわけ感涙ものは郡山病院の古びた茶色いレンガ塀。思いではどれも鮮やかなカラー、セピア色なんて嘘だわあ。

年の瀬、例年通り一足早い“年賀状”が香港から届いた。夫はそれに返事を書くような形で自分の亥柄の年賀状の余白にしたためた「百万人の大合唱、覚えていますか？・・・」香港からの年賀状の主は、とある香港の居酒屋で思いがけなく再会した夫の安高時代の同級生。

結婚してすぐ香港に移り住んだ私が、子供二人を幼稚園に送り迎えするようになった頃、子供の通う幼稚園周辺で名前は知らないが、かつての安女同窓生と思われる人を目撃するようになっていた。ある日子供を迎えに園児の母A(としよう)とふたり幼稚園へ向かって歩いている時、道路の向かい側に例の元安女生を見かけた。彼女は小学生の子供がいるらしくスクールバスを待っている様だった。私は反射的にAに聞いた。「あの人知ってる？」

A『知ってるよ△△さん。子供ふたりいて、どっちもすごく優秀なの。××さんが言ってたけど△△さんの高校って何て言ったかなとても有名で、すごい頭のいい進学校なんだって。』

私は続ける言葉を発すべく息を吸い込んだ。

A「あたしたちとは、全然違う。全く。」

私はほとんど前のめりになりそうな体勢をかるうじて整え、微笑んだ。以来、私は過去を秘めた謎めく女になった。そうこうして十余回の花かつみの季節を送り、そして何かしら心華やぐおぼろげな記憶。

(埼玉県在住 主婦)

JC全国大会



ある48期生の回想

藤田幸寿 (48期)

東京桑野会会報NO.28号(平成18年4月1日刊行)に高橋美希さんの「元安積中学校の玄関」の絵があった。いろいろなことが思い出されたので、パソコンを打ってみた。

【第1話 政府広報誌の表紙】

都立高等学校の校長を定年退職して、千葉県の私立女子高等学校の校長になった。ある日、机上に政府の省庁の広報誌がのっていた。この小冊子は、教授資料として、定期的に全国の高等学校に配られる。手にするなり「おや」と思った。表紙の写真は、母校安積中学校の正面玄関ではなからうか。驚いて裏面の解説を見たらまさしくそうだった。しばらくして、今度は金透小学校の正面玄関の写真が載った。木戸孝允の筆になる校名の扁額も見える。こちらもわたくしの母校である。安積疎水の開削による安積平野の開墾は、明治政府が失業武士救済のために行った国家的プロジェクトであったから、そのころに揮毫してもらったのかも知れない。安積中学校の玄関は「荒城の月」の作詞者で、二高教授だった土井晩翠も通った。創立50周年の頃だった。記念館設立の事務局長は、級友の渡辺政衛門君である。

【第2話 ガ島の鬼神】

ガダルカナル島(ガ島)が日米の一大決戦場だったことは、ご存じの方もおいでだと思う。この島の激戦で日本軍は2万余の戦死者をだした。日本軍の敗色の始まりである。当時わたくしは、いかなる鬼神、勇者が、飢餓にたえ、病魔と戦って奮戦したのかと思った。後年この島での戦死者名が発表された。その中に勢多貞雄君、滝田五郎

君などの名をみた。脳天を叩かれたように驚愕した。ガ島で死闘したのは、あの心優しく、誠実な級友たちであったのだ。

【第3話 黄色い帽子】

椿山荘の東京桑野会懇親会の席で、渡辺守ちゃん(昔の呼び名でゴメン)に久しぶりに逢った。彼は上野の美校をでて、えびす駅の近くにデザイン研究所を開き、警視庁の広報の嘱託などもしていた。小学校の子どもたちが登校、下校のとき、黄色い帽子を被り、雨の日は黄色い傘をさしている。交通事故から学童の生命を護る黄色のシグナルの提案者は、級友守ちゃんこと渡辺守治君である。ちなみに通学路の発案者は、都教委の同僚だった柏茂指導主事であった。

【第4話 カイチャンは勅撰歌人】

5年生のときのクラス担任は、佐藤勝一先生だった。先生は国語の教師で、退役陸軍歩兵大尉、見事なカイゼル髭を蓄えておいでだった。われわれは陰で「カイチャン」と、親愛の情をこめて呼んでいた。カイチャンは、昼食時には、必ず教室に現れて髭をしごきながら、早弁してしまっ、手持ち無沙汰の生徒には、優しく声をかけられた。卒業後間もなく、先生が応召されたことを知った。中支の戦野から先生が詠進された歌は、見事勅撰になった。心からうれしかった。

(元都立芝商業高等学校校長)

「香港・華南桑野会」 訪問記

村田英男 (75期)

平成18年11月23日飛石連休を活用して海外初の香港・華南桑野会を佐久

間崇之69期桑野会長、関博之安積高校校長、松尾昌一69期桑野会幹事長に同行し訪問した。

先立つ事約2年前、香港深圳にてビジネスをする渡邊剛司(104期)は福島県人会の会合に出席して溝井正幸(87期)に安積OBが多い事を聞きその場で溝井に香港桑野会設立を持ちかけたと聞く。

渡邊の父と私は安積で同期で旧知であった渡邊からは「香港桑野会を設立しますから安積桑野会本部にも連絡して下さい」とのメールを受け、本部に取り次いだ。

気の早い佐久間会長はその頃から「安積桑野会三役は西は大阪から北は盛岡まで手分けをして訪問するしきたりになっている。ついては香港桑野会といえども例外ではない」「設立の時は行くぞ」と言い多少のITスキルがある私はその香港、渡邊との連絡役として桑野会役員の隅に押し込まれた。

その後香港桑野会は正式名称を「香港・華南桑野会」と決定した。

その経緯は丸ごと渡邊のインターネットページから拝借する。

==以下ここから==

「香港・華南」という名前については香港だけでなく中国大陸での日本人も増加する中、より多くの安積OBの方に参加してもらいたく、命名いたしました。(実際、今回参加するはずだった先輩方も華南への出張でこられない事もあり、今後大陸サイドでの集まりもしたいと思います)「香港・華南」とはいうものの、もちろんマカオに住んでいる方も結構ですし、北京、上海にお住まいの方でも参加自由です。香港華南桑野会をベースに北京桑野会や上海桑野会も出来たらよいですね。

==ここまで==



さて、話題を香港桑野会、会合当日に戻す。今回の大きな目的、香港・華南桑野会への紫の桑野会旗の贈呈式。いわば新桑野会発足の「認証書授与式」である。私は簡単にプログラムを作りペーパー配布で体裁を整えた。

熊坂雅彦84期鹿倉浩一87期溝井正幸87期庄司忠司99期と前記渡邊兄弟の都合六名が出席。佐久間会長から香港・華南桑野会会旗の贈呈。

旗をバックに全員で写真撮影。その後食事をしながら全員が高校時代の思い出を語った。何故か全員共通して「高校時代は落ちこぼれだった」と言う。教師生活が長い関校長は「凄い、みんな見知らぬ土地で逞しい」と眩しげに皆を見ていた。

私の常識では中華料理とは大ナベで作って大皿に移し小皿に分けるもの。それが今回は違った。ボーイが一品づつ和食の煮物のように取り分ける、見るからに手の込んだ料理。われ等を歓待する彼等の好意を有りがたく受け取った。

別れ際、安積歴史博物館の保存にと香港桑野会諸氏から大金のご芳志を預かった。ああ「ふるさととは遠きに有りて思うもの」か。

(安積桑野会 副幹事長、
磐梯熱海きらくや)

医療崩壊をどう 食い止める、

—朝河貫一先輩に学ぶ—

本田 宏 (86期)

【はじめに】

昨年(平成18年)の6月24日の東京桑野会総会の席上、古川会長のお許しをえて日本の医療現場(特に急性期医療)が崩壊を始めたことを紹介させていただいた。その後斉藤英彦幹事長から、先日の話を会報に寄稿してはとのお言葉をいただいた。せっかくの機会、同窓の皆様日本の医療崩壊とその背景に潜む問題点について私見をお聞きいただきたい。

【医療崩壊、立ち去り型サボタージュとは何か】

高校時代はサッカー部、将来は飛行機のパイロットを夢見ていた私だが、ふとしたきっかけで医学部へ入学、昭和54年に弘前大学医学部を卒業、現在まで28年間外科医として働いてきた。今までの医師としての人生に悔いはない、しかしもう一度生まれ変わったら医師という職業選択をするだろうか、自信はない、それが日本の急性期

病院の労働環境だ。

「医療崩壊、立ち去り型サボタージュとは何か」(虎ノ門病院泌尿器科部長の小松秀樹氏著、朝日新聞社)という題名の本が医療関係者のなかで話題となっている。立ち去り型サボタージュとは過酷な労働現場から30-40代の一番働き盛りの勤務医が立ち去って開業などへ走ることを表した言葉だ。私はすでに50歳をこえ、数年前から副院長だが今でも365日枕元に携帯電話をおいて寝ている状態、勤務医の現場から立ち去ることができたら、外科医を引退できたらどれだけ楽だろうと思う、それが現在の急性期病院の勤務医の実態だ。

【日本の医療、4つの問題点】

1. 日本の医療費(GDP当り)は先進7カ国中最低、逆に国民自己負担は世界最高。

日本で盲腸(急性虫垂炎)の手術をすると7日間入院して総医療費は30万円程度、しかし米国では1泊入院で100万円以上だ。また日本のお産は30-40万円だが、米国では300万円だ。

このように日本の病院が受け取れる医療費は先進国最低レベルだが、信じられないことに国民負担割合は世界一のため(盲腸3割負担なら日本は10万円、ヨーロッパは個人負担無料の国が多い)、日本国民は医療費が高いと感じ、医療費増には反対する、国からすれば安上がり、国民や医療関係者にとっては辛い、巧妙な構図となっている。

2. 日本の医師の絶対数不足だが、医師不足は偏在が問題と片付けられている。

日本の医師数26万人は国民人口当たり世界63位、OECD(経済協力開発機構)加盟国人口当りの「平均」医師数と比較するとなんと12万人

も不足している。これが日本各地で噴出する僻地や産婦人科・小児科不足の根本原因。しかし厚労省の医師の需給検討会等ではこの絶対数不足を偏在が問題とすりかえてきた。日本が永年医師養成数を抑制してきた背景には医療費抑制という国家的目的があったためである。

しかし医療の複雑化・高度化に見合うマンパワー増員を怠ってきたツケは、当直明けもなく32時間以上の連続勤務が常態という勤務医の労働環境悪化だけでなく、さらに日本の基幹病院にさえ救急、麻酔、抗がん剤、緩和ケア、病理、感染症、精神科等の常勤医がいまいちというお寒い医療体制という結果になっている。たとえば私を含め、日本の多くの外科医は外科手術以外に、救急、麻酔、抗がん剤、緩和ケア等、一人何役もの働きを現場で要求される。そしてこれが日本の医療の質を高めにくい大きな原因となっている。

先日福島県の県立病院で、不幸にも出産時に母親が亡くなった件で、担当した一人医長（産婦人科医が一人しかいないという意）の産婦人科医が事件の1年後に突然逮捕された。この医師が殺意や障害の意図を持って妊婦さんの命を奪ったのならともかく、通常の医療行為に警察が介入し、刑事罰により結果責任を問う国は先進国では日本だけだ。しかも医療のプロでない警察や検察が調べに当たって犯罪か否かを問うてい

る。現在の医療は細分化し、現役医師であっても担当科が違えば他科の診療の適否を容易に判断できないのが現実だ。犯罪かどうか、ではなく、医療として適切かどうか、プロの目できちんと調べ、裁断する強権力を持った中立の組織が日本にも必要だ。医師の絶対数不足のためにチーム医療体制はもちろん、ろくに休日もとれない一人医長の現場は放置、何かあったら逮捕するでは、立ち去り型サボタージュはもちろん日本の医療崩壊を食い止めることは不可能だ。

3. 医療費削減の前に特別会計や公共事業の無駄見直しが先決。

先に日本の医療費（診療報酬点数：公定価格）が世界的に見ても低く設定されていることについて触れたが、公共事業の法外なコストと比較すると医療改善の解決の糸口が見えてくる。

日本の高速道路には500mから1kmおきの上り下り両側に緊急電話が設置してある。緊急電話一台の設置費用は250万円だが、なんとその原価は40万円という。人の命にかかわる盲腸やお産は30万円、胃癌の手術で3-4週間入院しても日本は120万円だ。一方、携帯電話の普及でほとんど使われないはずの緊急電話一台が250万円、これを理不尽と言わずして・・・。

私は本当に必要な公共事業は今



画：岩谷 徹（67期）

後も実施すべきと思う、しかし携帯が普及している現在、緊急電話設置の意義は再検討すべき、今後設置するにしても緊急電話一台は50万円以下で作ってほしい。恐らくは一時が万事、公共事業をはじめ特殊法人等の随意契約や天下りを見直すだけでも、国民の窓口負担を軽減しながら、日本の医療体制を先進国並みにすることは可能なのだ。

4. 自殺大国・格差拡大社会を放置では国が崩壊する、「医療は命の安全保障」。

財政赤字とは言っても、国連やODA拠出金は世界トップレベルの日本だが、自殺者は8年間続けて3万人を超え、世界の自殺大国となって久しい。OECDの調査では2005年国民の豊かさランキングでは日本は10位と低迷、2000年の相対貧困率は米国について第2位に急上昇した。さらに国際経済フォーラムによる国際競争力では頼みの綱の経済競争力が9位から12位に転落している。

鞍手茶屋

東京で福島のけんちんともちを!!

——昼はそば、夜は酒と肴——

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F 電話 03-3581-7066

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 電話 03-3213-2385

中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 電話 0249-84-3774

(店主) 上野富衛 (78期)

よくスウェーデン等北欧型の福祉国家を「税金が高く経済が駄目になる」と酷評する評論家等を見かける。しかし北欧諸国は上記調査結果で、国民の豊かさは上位でなおかつ貧困率は低く、さらに国際競争力は高い。資源の少ない日本こそ見習うべきは米国型より北欧型ではないだろうか。日本が今のままの米国追従の経済最優先策では格差社会は拡大し、医療崩壊どころか国が乱れて崩壊する。日本こそ国民という資源を最大限に生かす政策を採るべきだ。

【朝河貫一先輩の箴言】

先日桑野会で購入した「世紀を越えた偉人、今に生きる朝河貫一、その生涯と業績」から、現在の医療や日本が抱えた問題点を予言する箴言を発見した。

氏は1898年（明治31年）頃、すでに日本の自国利益を追い求めようとする姿勢と、閉鎖的な考え方に対して厳しい注文をつけている。さらに歴史的な流れをもとに日本の国民性について「愚かな指図や悪い指揮にも簡単に従ってしまう傾向がある」と苦言を呈した。また国家のあり方について「国家はその国民が人間性をもっているかぎりにおいてのみ、自由な独立国である。しかしその政治体制が民主主義の組織をそなえているというそれだけでは、自由な独立国とはいえない。自由主義にあっては、その国民が世界における人間の立場を、すべてにわたって意識するまでに進歩しているかどうか、それこそが重要である」と述べている。

さらに第二次世界大戦前から日本の態度について「国際感覚の不足が、日本の将来に禍いをもたらすのではないかと厳しく忠告、開戦後も「戦いのことについての日本の記事は当地の新聞より短く、本国の日本人には何も知らされていないのではないかと心配です。（事情がよく知らされていない日

本では）罪のない忠実な一般の人民が最も気の毒であります。」と心を痛めていた。日露戦争後に増長する母国日本の姿を見て記した警告の書『日本の禍機』から30数年、日本は軍人・軍属・民間の人々をあわせて230万人もの戦死者を出し、広島と長崎には世界で初めての原爆が投下されるなど大きな犠牲を払って朝河先輩の警告の本当の意味を知ることになった。これが動かすことができないわが国の歴史である。そして今こそ朝河先輩の箴言を私たちは世に問いかける時と思う。

【なぜ日本がこうなった】

なぜ日本がこうなったか、私はその原因を第一は日本の指導者層が「武士道精神≡ノブリス・オブリージェ」を失ってしまったこと、第二に戦前と同様メディアの機能不全により、国民に真実が伝わらないため、と考えている。

昨年、日本の超エリート階層（のはず？）が「お金を儲けて悪いんですか」や「ど素人ですから・・・」と発言した。はたしてこのような自国の偉大（？）な先輩を見て、子供たちは日本を、そして日本人を尊敬できるだろうか。

さらに戦前とは生まれ変わったはず（？）だが、「社会的木鐸」という言葉からはかけ離れた視聴率最優先のメディア。興味本位で時々的事件に左右される話題ばかり、国民が本当に知り、深く考えなければならぬ大切な情報が伝えられていないと思う。朝河先輩の苦言通り、いくら日本が民主主義の形態はとっていても、精度とともに送り手の倫理観の高さを感じさせる情報がなければ、国民が正しい判断をすることは不可能だ。

【おわりに】

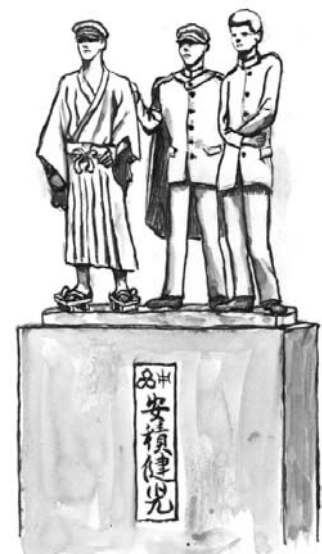
勤務医の生活から逃避したい等、意気地がないことを書いてしまった。しかし医師になって本当によかったと思

えることがある。それは数多くの患者さんの生死に触れ「人生、生きていく上で最大の目標や価値は金ではない」ということを、自分が健康なうちに体得できたことだ。人の根源的な悩みは四苦八苦の四苦「生老病死」であることは2500年前のお釈迦様の時代から変わっていない。

混迷する日本が、そして世界が21世紀に必要としているのは、敗戦後に日本で重視されるようになった偏差値エリートではなく、良い意味での武士道精神を持つ真のエリートではないだろうか。朝河先輩を生んだ母校、世界で通用する真のエリート育成を目指す学び舎として21世紀も発展していくことを期待してペンをおきたい。

（日本の医療界自身も自己改革を必要とする面も多いが今回は紙面の関係で触れていない。皆様の忌憚ないご意見やご批判をいただければ幸甚の至りである。）

（埼玉県済生会栗橋病院副院長、医療制度研究会副理事長
医療制度研究会ホームページ
<http://www008.upp.so-net.ne.jp/isei/top2.html>）



画：岩谷 徹（67期）

「海洋国家日本」への 独り言

大内博文 (71期)

「海洋基本法 (仮称)」が今国会で議員立法として審議されている。海洋・海運国家としての認識は国民の中に定着しているであろうか。

日本の領土は、現在38万平方キロの面積を有し、世界で59番目の広さを持つ。これが排他的経済水域面積 (EEZ) を取ると447万平方キロとなり、6番目の面積となる。この広大な面積をいかに管理・利用するかは日本として重大な問題である。海洋保安を担当しているのは海上保安庁で、総員12,000名、1,800億円余の予算で運営されている。保安業務がまともに守られていればこそ、海運・造船・船用関連・水産・海底資源探査・開発関係業が安心して営まれる。

日本は資源エネルギーの95%、全食料の60%を船舶による輸入に頼っている。日本国籍船 (国旗日の丸を掲げてる船) は1600隻 (S47年)、から95隻 (H17) へ、外航日本人船員は60,000人から2,600人となり、(社)日本船舶機関士協会会員 (外航船の機関長・機関士) は5,700人から1,000人となっている。日本の人口は減少に転じたとは言え1億2000万人を数える。資源が乏しく自給自足が出来ない日本は、原料を輸入し製品を輸出している形態は今後とも変わることなく続いていく。

輸出入は船舶に頼っているのは前述のとおりであるが、それを運航する船員はこれまた減少の一途である。日本で船員が減少に転じたのは、1985年のプラザ合意による為替政策の転換にある。1975年頃より日本人船員コストが為替変動に伴い急激に上昇し、一部で外国人船員 (部員; 普通船員) との混乗化が始まり、一方で日本人船員の

みで運航する近代化船がスタート、35名の乗組員が18名船まで実験・実用化された。更にバイオニアシップと称する11名の定員まで努力したがコスト比較で勝負に負けた。これに代わり混乗船の増加と共に、日本籍船が便宜置籍船となり外国に船籍を置き日本船社が運航する形態が増えた。世界情勢が平和な時代であれば、海運会社が生き残りをかけた結果としてやむを得ないと思う半面、現場船員の心情は計り知れないものがあつた。これが昭和60年 (1985) から緊急雇用対策としての船員の合理化 (希望退職・陸上職への転換) であり、海運業界・船員労働に今も影を引いている。

戦争で日本船舶は陸軍・海軍の徴用船としてその大半は撃沈され、同時に乗組員は船と共に運命を共にした。その数は45,000人余に達し、軍人の戦死比率を上回り、御霊は横須賀市の観音崎公園に眠っている。今年も5月11日 (金) 関係者による追悼式典が予定されている。失った船舶・船員の戦後補償はどうであったか。戦後日本はゼロからの出発より復興を成し遂げた中で、船・船乗りを思い出す人は少ない。今では演歌にもマドロスは出てこない。

船員になるには海員学校 (現・海技教育機構)、商船高校 (現・商船高専)、商船大学 (現・東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海事科学部) があり、最大で年間1,500名を超える人材を卒業させ、多くを外航海運に投入してきた。現在外航海運への部員 (普通船員) としての就職はなく、職員 (航海士・機関士) は高専・大学あわせて250人の定員枠があるが、海技免状取得の乗船実習課程へ進むのは150人程度で、実際に船員として海運会社に就職するのは40~50名であった。ここに来て日本人海技者が急激に不足し (特に機関士)、昨年は80名程度が船員として海運会社に就職した。今後150

~200人 (年) 程度が継続的に海上職を経験しなければ、日本の海事クラスター社会は崩壊するとの声もある。

参考までに平成5年まで、安積高校から東京商船大学に進んだ人は、64期2名、65期2名、66期2名、67期1名、68期1名、69期3名、71期1名、72期1名、73期1名、77期1名、83期1名、88期1名、97期1名、99期1名、101期1名、103期2名の計22名で、73期までの14名のうち12名が機関科に入学している。なぜ機関科希望者が多かったのか。当時は入学条件に視力検査があり (裸眼航海科0.8、機関科0.6以上) 旧校舎での授業が多少の影響があつたのだろうか。

(日本船舶機関士協会会長)

安積の今昔

別府正俊 (86期)

大層な表題にしてしまいましたが、卒業して30数年が経ち、ここ10数年間は息子や娘がお世話になり、PTAや剣道部の後援会の関係で母校に出入りする機会も多い立場ですので、自分の現役当時を懐かしむとともに安積の近況をお知らせしたいと思います。

○応援団

私は、86期の応援団長でした。応援団員だけが履くことを許される高下駄と団長ら先輩方の勇姿に憧れて入団しました。安積の応援団は、他の高校とは違って当時流行った青田赤道のようなものではなく、安積の野球部を始め運動部の活躍を純粋に願う集団であり、毎日応援の練習に明け暮れたものです。応援団の練習場所は体育館の裏、今は思索の森と呼ばれている場所でした。多数の松の木が立ち、その下に笹などが生い茂った場所で、校歌に

ある「文の林に分け入りて」そのものでした。その練習場所で、振りの基本、拍手の基本、各種の型を訓練し、声出しつまり発声練習、校歌・応援歌を全曲歌いながらその指揮の練習もするというものであり、スポーツの練習以上の厳しいものでした。

甲子園出場協賛金が余ったということで、室内練習場を思索の森の松の木を切って建設しようという問題が持ち上がりました。思索の森に対する思い入れが強い私は反対派でした。ところが、思索の森に行ってみたところ、既に私たちの練習場所はなくなっていました。平成14年度からの共学化に伴う部室増室のため、体育館西側の正に私たちが汗と涙を流したその場所に、部室棟が2棟も建っていたのです。もう室内練習場問題に反対する理由はなくなっていました。当然賛成派に回りましたが、あの場所がなくなってしまったことについては今でも複雑な心境です。

現在の応援団員も、練習場所は違っても私たちのころと同じように練習をしており、その点では伝統が続いているんだなと思われまふ。先般、娘の剣道の遠征に随行した際、他県の剣道部の先生から、「安積の応援団の練習を見たことがあり、運動部員以上の練習で感動した。我が校の授業の際、生徒達に安積の応援団の練習状況を話し、何事も基本が大事であると教えている。」と言われ、とても嬉しくなったものです。

応援の振りの基本は、真上に挙げた両手を後頭部を持っていった後、前と左右に交互に振り下ろすものです。1、2、3、4、5、6、7、8と団員が1人ずつ掛け声をかけながらこれを繰り返すわけですが、掛け声をかける役が1周すれば「基本を1本振った」ということになります。人数が多ければそれだけ辛いわけですが、1回の練習では何本も振ります。私が安積関係のWeb上で使っている「基本100本」

というハンドルネームはここから取ったものです。当時団員が20人以上いましたから、100本も振ったら倒れますけどね。

○甲子園出場と紫陽花さん

甲子園出場には、当然ですが、皆さん同様感動しました。俺が生きている内には行ってくれと待ちに待ったものが来たわけですから。出場決定のラジオニュースを聞いたのは、運転中でした。自然と涙が出てきました。校歌を歌いながら走りました。

甲子園出場をきっかけに、野球好きのOBらが、甲子園に出場した3月25日にちなんで、「25日会」と称し、毎月25日に応援団OBが経営する郡山駅前の「千年満開」という居酒屋で飲むようになりました。これは今でも続いており、みなさんも、もし25日に帰省なさった際は顔を出してみて下さい。

その25日会で仲良くさせてもらったのが紫陽花さんこと江川英男さんでした。ご存じの方も多と思いますが、江川さんは80期で、安積高校、殊に野球部などの運動部を「狂」がつくほど愛していました。野球部の試合があると、家業の酒店を放り出してどこの球場にでも駆けつけ、ネット裏に陣取って応援を続けていました。立派なホームページを立ち上げ、ハンドルネームを「紫陽花」と称し、試合経過を逐一携帯電話から書き込み、遠方のOBなどにも大変喜ばれていたのです。しかし、54歳の若さで急逝されてしまいました。有志がその紫陽花さんこと江川さんを偲んで、校庭の西側、朝河桜の南方に紫陽花を植樹しております。江川さんが見守ってくれているので、その内夏の甲子園に行けるだろうと思っています。

そのホームページは、一部を有志が引き継いで今でも運営しています。暇なときにでも覗いてみて下さい。

<http://www.geocities.jp/katutoshi86/asaka/>

ちなみに、安積の関係ではこのほかに非公式のホームページや掲示板がありますので、お知らせしておきます。ここに掲載することはそれぞれの管理人の許可は得てありますが、これらはいずれも私的に作ったものであり、また、公開していないものもありますので、これらのURLをWeb上に貼り付けることは絶対にしないようにお願いします。

応援団関係

<http://www.geocities.jp/toukon90/>
剣道部関係

<http://6301.teacup.com/chickenpapa/bbs/>

ハンドボール部関係

<http://asakahandball.hp.infoseek.co.jp/6/2annai.html>

○共学化と娘の入学

私は、子供がたくさんおり、長男が112期で安積に入学し、私は、安積の剣道部のおっかけ親爺となりました。長男が卒業するころになると県立高校全校共学化の機運となっていました。私は反対でした。男子校で学ぶ権利を奪っていいのかなどと叫んでいましたが、時代には勝てず、残念でした。

ところが、娘が女子2期生として安積に入学することができ、そうなればまた堂々と校舎に入れることとなつて、嬉しさ半分の複雑な気持ちでした。

共学当初から制服がなく、いわゆる制服自由化となりましたが、さすが安積で学ぶ女生徒達であり、その当時は派手、奇抜な服装はなかったと思います。

ところが、122期で入学した下の娘の入学式に出てみると、男子は大半が詰め襟であるものの、女生徒のほとんどがイーストボーイなるブランドのブレザーに短いスカート。いつからイーストボーイが制服になったんだと思うほどでした。それはそれでいいかと思っていると、中には今時の他校の女生徒同様の下着が見えるのではないかと



護士で、私は、弁護士登録をした平成元年に入部し、以来18年間ローヤーズで野球を楽しんできました。弁護士が野球なんて出来るのか、と思われるかもしれませんが、部員のほとんどは硬式野球経験者で、かつて法政の江川、明治の鹿取と対戦した選手も含め東京六大学野球部出身者が数名在籍するほか、甲子園出場経験をもつ選手（土佐高校出身）もいました。ローヤーズの現在のエースピッチャーは、20年ほど前に志村、大森（元巨人）らを擁し東京六大学リーグ戦を連覇したときの慶応の正外野手が務めています。そのため、ローヤーズは他の弁護士野球チームより実力が勝り、毎年、全国の約20チームで争われる日弁連野球全国大会で、昨年8連覇を達成しました。

ところで、ローヤーズの部員には「行列のできる法律相談所」に出演する北村晴男弁護士がいます。北村さんとは、司法試験合格後に法律実務を勉強する司法研修所で同じクラスに配属されて知り合い、互いに野球が好きで年齢も近く、司法修習生の野球チームを結成するなどして親交を深めました。知らない間に私のローヤーズへの入部手続きをとってくれたのも彼でした。北村さんは走・攻・守三拍子揃った内野手（主にショート）としてローヤーズで活躍し、打たれてマウンド上で落ち込んでいる私を「ピッチャー頑張れ」と大声で激励してくれました。一昨年と昨年、私は分野別講演会の講師として母校の1年生に法律学の分

いほどのミニスカート、胸がはだけそうなシャツ、厚化粧という生徒も多く見られ、田舎者の親爺としては新宿の歓楽街かと勘違いしそうです。質実剛健でむさ苦しかった男子校が本当に懐かしいです。

それでも、禁止されている派手な色の茶髪・金髪やピアスといった生徒はいないので、今時なりの安積のルールは守れているようです。

また、生徒としての本分のほうは、学業も部活も立派です。122期生の模試の結果では、東北のトップ校の中でも一番によかったとのことですし、陸上部、水泳部などが全国で活躍しています。今後実現して欲しいのは夏の甲子園です。カチ割りで喉を潤しながらスクラム校歌を歌いたいですね。

○現在の安積の風景

といっても、空からの風景ですが、

写真を載せておきます。

問題となった室内練習場も写っています。なお、桑野会館と呼ばれた合宿所は昔のままの建物ですが、内部が大改装され、2段ベッドではなくなりまし、皆様ご存じのように桑野会の120周年記念事業として女子用の風呂やトイレが設けられ、快適になりました。

(福島地方検察庁)

東京ローヤーズ

(鈴木修一 89期)

私は、東京ローヤーズという軟式野球チームに所属しています。東京ローヤーズは、その名のとおり選手の全員が東京の3つの弁護士会に所属する弁

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

野のお話をする機会を与えられましたが、生徒の反応が悪いと感じたときのネタは決まって「北村弁護士」でした。これが生徒にウケたことは言うまでもありません。

さて、私は石川郡古殿町の出身で、昭和48年安積高校に入学し、3年間、郡山一中の近くに下宿しました。宮本中（現古殿中）では野球をやりチームメートの何人かは学法石川高の野球部に入りました。私も安積で野球をすることを考えましたが、学校に馴染むことや下宿生活に慣れることに精一杯で、入部を決断する余裕はありませんでした。私の記憶に間違いがなければ、昭和48年、安積は春の県大会で優勝、夏の甲子園県予選で第1シードになりました。惜しくも準々決勝で敗れましたが、安積の熱狂的な応援を見て、自分もこんな応援を受けて野球をやってみたいと思いました。あるとき、校庭でソフトボールをして遊んでいたら、それを見ていた当時の野球部部長の溝井先生から「野球部に入らないか」と誘われました。とても嬉しかったのを覚えています。私と同学年の逸見、真船、千坂ら有力選手が続々と辞めてしまい、同学年部員は薄井を含め3名ほどに減ったときで、入部すれば試合に出られるかな、とも考えましたが、結局入部しませんでした。溝井先生には、受験勉強があるから、下宿の食事ではもたないから、などと述べて断ったと記憶しています。しかし、内心は自信の無さもありました。

安積の野球部に入っておけばよかったな、と今では悔やまれます。安積で野球に打ち込まなかった分、この歳になってもローヤーズで野球を続けているのかな、と思うことがあります。

ローヤーズは、昨年末2年間監督を務めた北村さんが引退しました。今年バトンタッチを受けた私が監督となり全国大会9連覇を目指します。

(山田・合谷・鈴木法律事務所 弁護士)

ホームページ創設 4年目を振り返って

－ 4年目の活動と
アクセス状況報告－

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀 雅美 (86期)
(東京桑野会ホームページ委員長)

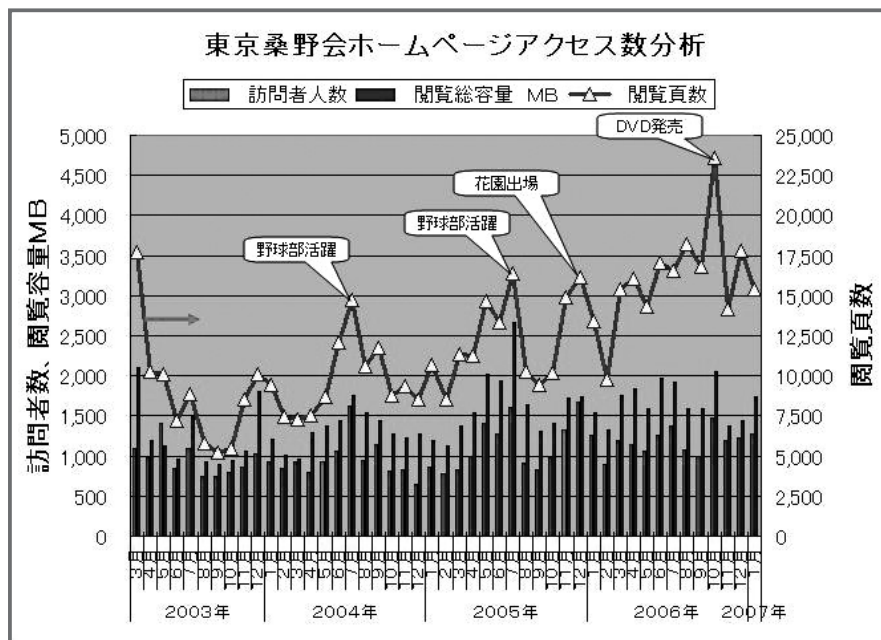
会報記事の定番となりましたが、当会ホームページの年間活動報告をします。平成18年度も大きなトラブルは発生せず、無事に満4年目を終えました。これも会員の皆様のご協力の賜物と深く感謝しています。

委員会活動としましては、まず4年目に突入した昨年3月1日に、ホームページのリニューアルを実施しました。オープニング頁はそのまま残し、トップメニュー頁以降の主な頁につきまして、デザインを大幅に変更しました。お気づきになりましたでしょうか。特段に否定的なご意見がありませんでしたので、受け入れていただけましたものと勝手ながら判断しています。ご確認ください。

また、昨年6月の東京桑野会総会で紹介し予約を開始しましたが、東宝映画「百万人の大合唱」DVDの予約受付広告やポスターを作製しホームページに掲載しました。本DVDは10月1日に発売を開始し順次発送しましたが、その後もホームページの広告を見て注文する会員諸兄もおり、大盛況でした。会員以外の一般の方からも購入希望の連絡があり、本DVD発売の反響は非常に大きいものであることが判りました。引き続き在庫のある限り注文を受け付けますので、事務局までご連絡をお願いします。3,990円/枚（送料・手数料込み）という、リーズナブルな価格となっています。

さらに「ホームページ委員会の頁」を、会員の皆様の随想をブログ風にし書き綴った頁に変更しました。手始めに委員長である私のひとり言を、続いて塩谷先生のブラジルの暑い風を掲載しました。投稿希望の文書などありましたら掲載しますのでご連絡ください。

さて当ホームページへのアクセス状況ですが、この原稿を書いております1月までの経過をグラフで示します（別掲の図を参照）。昨年4月19日には、



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

のべ閲覧頁数が40万頁を越え、5月29日に訪問者数が4万人を突破しました。さらに10月14日にのべ閲覧頁数が50万頁を越えました。そしてついに、今年2月2日(金)夕方の18:31には、訪問者数が5万人を突破したのです。ペースとしましては、ホームページ開設以来最速となっています。グラフが右肩上がりになっていることがお判りかと思います。

あいかわらずアクセス数の多い頁は掲示板です。4年目だけの集計で、総閲覧頁数の48%が掲示板となっています。最近では、書き込みをしてくれる方が減少して、むしろスパム書き込み(迷惑投稿・詐欺目的の投稿など)やその事前検索が多いように感じています。掲示板は会員交流のために設置したものであり、ぜひ皆さんにもっと利用して頂きたいと思います。なおスパム書き込みのリンクは、おおむね犯罪に関っています。

スパム書き込みは発見しだい削除していますが、毎日10数件程度書き込まれているのが現状です。少なくとも1日に2回の巡回監視をしています。会員の皆様が発見しても興味本位で内容を開いたり、リンクに不用意にアクセスして、犯罪に巻き込まれないようご注意ください。

掲示板は会員の皆様のもので、同窓会でのOB間交流に、サークル活動や催し物の連絡用としてもお使い下さい。あまりにもスパム書き込みが多い場合は、掲示板を閉鎖することもあります。ご理解ください。

今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みますと考えておりますので、なお一層のご愛顧をお願いします。

(出光興産(株)電子材料部)

分野別講演会について

渡部良朋 (91期)

母校における分野別講演会について東京桑野会の皆様へのご報告を兼ねて起稿いたします。分野別講演会は、既報の通りSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として始まり、平成17年度から母校独自の予算で実施されております。一年生を対象にして、職業観育成を図るべく、OBによる厚い、篤い、熱い、講義が行われています。

東京桑野会ではこれに全面的に協力し、広い分野から講師を母校に紹介しています。事務局として携わっている者として大変にありがたいと思うことは、講師をお願いしたOBの方々が極めて協力的であることです。母校の後輩を想う気持ちを、本当に尊く感じます。加えて、後輩達が持っている潜在能力を引き出すことが、世のため人のために為ることと講師の皆様が信じているということ強く感じます。

今回は、特に基調講演として、古川清会長が講演されました。父兄も聞くことのできる形でした。古川会長のご講演は、生徒さんよりもむしろ父兄の皆さんに、大きなものとなったと感じました。父兄の中に、耳の不自由な方がいらっしゃいましたが、その方に手話通訳者の方が講演の内容を伝えていた姿に、大きな感動を覚えました。母校が、如何に地域の皆様から期待されているか、とても印象的なシーンでした。

ところで、事務局として心苦しいところもあります。講師を母校に紹介する際に、スケジュールの都合をお聞きして可能な場合をお願いするのですが、皆さん、大変に多忙であるということ。平成18年度は平成17年度に引き続き土曜日に開催することで、な

んとかスケジュールを調整して頂きましたが、本田宏先輩(86期)などは当日にNHKの生番組出演があり、とんぼ帰りされたほどでした。それでも母校の後輩達に「伝えたい想い」があるということに、重く尊いものを感じます。また、今年はスケジュール等の都合で講演を引き受けることができないけれど、母校からの要請には出来るだけ協力するよ、と言って下さるOBの方々も多いことにも、心を動かされます。

このような多くの方々と、年代や仕事内容を越えて、交流する機会を持つことができる……。同窓会をお手伝いさせて頂いている喜びを感じる時です。OBの皆様、どうぞ、今後とも母校の事業へのご協力、宜しく願います。最後に、平成18年度分野別講演会の講師として、ご協力頂いた皆様のお名前とご所属を記したいと思います。

・角田欣一(85期、群馬大学)・村上昌弘(85期、共立女子大)・本田宏(86期、済生会栗橋病院(兼)東京女子医大)・別府正俊(86期、福島地方検察庁)・鈴木修一(89期、弁護士)・根本孝七(91期、電力中央研究所(兼)東京工業大学)・増子昌也(91期、講談社)・今井厚弘(りそなホールディングス)・渡邊 聡(98期、筑波大学)・川前徳章(102期、NTTコミュニケーション科学基礎研究所)・渡部良朋(91期、電力中央研究所)。※敬称省略。なお別府氏は、地元郡山のOB・父兄として講演されました。

(財)電力中央研究所)



教室の黒板

画：岩谷 徹(67期)

東京桑野会役員名簿 平成19年4月1日現在

□役員

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
会長	古川 清	63		
副会長	大津 隆	63		
副会長	水口 楨	67		
副会長兼 幹事長	斉藤 英彦	69		
副会長	増子 邦雄	71		
副会長	高松 豊	74		
副会長兼 副幹事長	櫻井 淳	78		
副幹事長	丹治 則男	81		
副幹事長	渡邊龍一郎	81		
副幹事長	村上 昌弘	85		
副幹事長	坂本 浩一	86		
副幹事長	芳賀 雅美	86		
副幹事長	渡辺 政信	88		
副幹事長	渡部 良朋	91		
会計監査	大内 博文	71		
会計監査	関根 健治	73		

顧問	高瀬 健二	46		
顧問	吉田 弘俊	52		
顧問	竹花 則栄	55		
顧問	小浜 精吾	58		

□幹事

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	梅井 保夫	51		
幹事	小宮 茂	53		
幹事	佐久間盛政	54		
幹事	結城 洗	55		
幹事	石川 衛三	57		
幹事	池田 和男	58		
幹事	小針 久	59/60		
幹事	佐藤 啓	61/62		
幹事	村山 俊司	61/62		
幹事	鷗沼 直雄	63		
幹事	谷本 滋朗	63		
幹事	渡部 喬一	64		
幹事	本田 保夫	64		
幹事	佐藤 司	64		
幹事	阿部 文俊	65		
幹事	伊藤 巖	65		
幹事	清治 和昭	66		
幹事	橋本大三郎	66		
幹事	横尾 稔	66		
幹事	遠藤 修	67		
幹事	伊藤 泰昭	68		
幹事	青山 肇三	68		
幹事	有我 政彦	68		
幹事	佐藤 廣	69		
幹事	近内 靖夫	69		
幹事	石井 敬治	70		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	矢吹 晋	70		
幹事	渡辺 哲弥	70		
幹事	武藤 勇司	71		
幹事	大和田允彦	71		
幹事	遠藤征志郎	72		
幹事	遠藤 宏司	72		
幹事	菅野 一雄	73		
幹事	武藤 一駿	74		
幹事	伊豆 秀雄	74		
幹事	今川 直人	75		
幹事	柳田 力	75		
幹事	満井 和正	76		
幹事	浅川 章	76		
幹事	草野 幸次	77		
幹事	和田 正哉	77		
幹事	椎野 靖啓	78		
幹事	宗像 良保	78		
幹事	大竹 英雄	79		
幹事	山元 紀美	79		
幹事	上石 利男	80		
幹事	安部 直文	80		
幹事	斎藤 誠	81		
幹事	石井 俊一	82		
幹事	古川 清志	82		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	永山 幸男	82		
幹事	小林 伸久	84		
幹事	境 君夫	85		
幹事	本田 宏	86		
幹事	坂路 誠	87		
幹事	斎藤 弘之	87		
幹事	大矢 真弘	88		
幹事	鈴木 修一	89		
幹事	有我 明則	90		
幹事	増子 浩重	92		
幹事	斎藤 宏海	93		
幹事	阿部 力也	94		
幹事	鎌田 光明	94		
幹事	藤田 健彦	96		
幹事	佐藤 厚	97		
幹事	小野崎 敦	97		
幹事	宗像 孝	97		
幹事	遠藤 昌明	99		
幹事	川前 徳章	102		
幹事	土田 隆弘	105		
幹事	加藤 祐一	105		
幹事	伊藤 泰司	106		

編集後記

●会報編集に関係して、早や25年になる。今年度から渡部良朋さんが広報部長となり、大分精神的にも実質的にも楽させて頂き、原稿集めや編集がテキパキと進行しました。11月に移転した私の横浜事務所で横浜編集会議をし、中華街を案内できました。そして編集後記を書いている最中に星先輩の訃報、東京桑野会のシンボルの存在、様々な思い出がよぎります。長い間事務局を引き受けていただいて、本当にお世話になりました。御冥福を祈ります。(78期櫻井淳)

●「会報」の編集陣が、いつしか80期以降に主力が移りました。東京桑野会の裾野の広さを感じました。また、こんにちまで会報を論じてきた先輩達の判断力と先見の確かさに敬服いたしました。今回、イラストを寄せていただきましたお二人のコメントから。母校美術部顧問・今泉勝行先生「遅くなっ

て申し訳ありません。一点ですがお送り申し上げます。よろしかったらお使い下さい」と、旧本館正面のスケッチに添えて。67期岩谷徹(版画家)さん「安高のスケッチ5枚一応やりました。大講堂のシャンデリア、安高らしいとも思わないしカットして大して面白くないのでやめました。2010年ビッグアイでの大個展楽しみですね。神から命を延してもらったのだから良い仕事をして下さい」と。このお二人の他に、実は母校出身の現国会議員に「窓から見える風景」をお願いしたところ、N議員からは今号掲載の御父上様の作品(議員のご母堂の像です)が。G議員からはスケッチの依頼とは心外でした、でもシャレタ話ですと電話。A議員からはそのまんまでした。イラストを担当してみたい方、目下募集中です。是非という方、待ってっかない。

(74期高松ゆたか)

●昨年会社都合で転勤となり、広報部会の活動に参加できなくて申し訳なく思う毎日。通勤時間が本社勤務時代は片道30分ほどだったが、今では電車とバスにて片道1時間40分と3倍強もかかり、しかも新職場は研究所なので開始時間が早くて、今までより2時間も早く自宅を出る始末。毎日が遠足?でも電車に乗っている時間がたっぷり1時間もあって(しかも必ず座れる)、新聞は隅々まで読めるしひと眠りも可能である。満員電車での立ちんぼ通勤の時代は結構疲れたが、今では楽チンと言って良く楽しい通勤の日々を送っている。

(がっちゃん)

●「握手をしよう」と櫻井@78期先輩。平成18年度東京桑野会総会・懇親会の二次会を終えた目白

駅のホーム上でのこと。何のことでしょうか?えっ何々?広報部会を引き継ぐ?東京桑野会会報No.29から主体的にやってくれ?・・・。荷が重いとは思いましたが、市町村合併で「新・須賀川市」の属国となった「旧・長沼町」の出身である私が、「旧・須賀川市」のご出身であられ、かつ、安積の大先輩である櫻井殿のご命令に背けようか(なんちゃって)と、お引き受けすることになりました。どうぞ、皆様、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。(GF91)

●編集作業の最後の段で、山本佳(58期)氏が学校歯科保健向上への貢献で、文部科学大臣賞を受賞されたとの情報がよせられました。誠におめでとうございました。

事務局便り

●【事務局からのお願い】会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく作用されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきませんので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願いいたします。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

『東京桑野会会報』No.29

2007年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

斉藤法律事務所気付

Tel03-3356-6677 Fax03-3356-6678

E-mail info@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel03-3635-4510 Fax03-3635-4515



琳子像:故・根本正良(50期)
(根本匠衆議院議員(82期)の父)